

東漸保育園  
第三者評価報告書  
(評価講評)  
平成29年度

かなわが福祉サービス第三者評価



日本コンサルティング株式会社

## 【施設の概要】

当園は、横浜市鶴見区にあります。創設からの歴史は長く、昭和 45 年（1970 年）に設立、以来仏教保育（生命尊重、報恩感謝）を中心に各年齢別にクラス編成をし、保育園の温かい雰囲気の中に情操教育と遊び感覚で就学に備えた教育を組み入れた保育を展開し、保育園と幼稚園と両方の流れをもった保育をしています。

保護者との信頼関係を大切にして、自分の主張と仲間たちとの和を大切にできる人を目指した育成をしています。

鶴見川ほとりの閑静な住宅街なかで、木造園の暖かさをそのままに上述の暖かみのある保育を保護者と共にアットホームな雰囲気で行っています。

## 特に良いと思われる点

### 1. 保育方針「仏教教育や報恩感謝」の保育を展開し挨拶や感謝が身についています

保育方針の仏教教育、生命尊重、報恩感謝を中心にし、保育園としての情操教育と幼稚園としての教育的要素を取り入れた保育を展開しています。0～2 歳児には子どもを温かく受容し、情緒の安定、生活のリズム、基本的な生活習慣の習得などをベースに保育を行っています。園には、保育園の園歌や「みんなが、よい子になるように」と子どもが歌いやすい歌詞の「ほとけさまのうた」がたくさんあります。今月の歌として、園だよりも掲載しています。子どもは日常的に生活のいろいろな場面で「ほとけさまのうた」を元気にしっかりと歌っています。また、給食活動や食事マナーの取り組みは、保育方針を実際の保育に反映しており、挨拶や合掌で感謝の言葉が自然に身についています。

### 2. 教育的要素を取り入れ専任講師による保育活動を行っています

園の方針の一つである教育的要素を取り入れた保育を実践しています。3～5 歳児には子どもが遊びの中で楽しく「もじ・ことば・かず」の学習をする取り組みを、年間を通して行っています。「英語」は特別な指導者はいなく、ほぼ毎日 VTR で耳からネイティブの英語を捉え発声しています。科学の実験遊びや絵画教室、音楽、体育には専任の講師が見え指導をしています。絵画では紙工作やブラシ絵、ボディペインティングなど、体育では鉄棒や跳び箱、マット運動など、音楽ではハーモニカやメロディオンを演奏しています。専任講師による基本的な指導を受けた後、子どもは自ら発展させて日常生活の中で、自由に楽器遊びを楽しんだり、新聞紙や広告紙、自由画帳などを使い、自分の気持ちをのびやかに表現しています。

### 3. 日々の仕事の中で職員教育を行い、実務の中で育成を図っています。

当園では職員育成に力を入れています。調査時点における保育業界全体にある保育士先生不足の問題に対して、量の確保はもちろんのこと質の向上をはかり保育サービスの

質が落ちないように努めています。その育成方法も外部主催の研修会に参加するだけでなく、園内でも研修を行っています。さらに外部の専門家を呼んだプログラムがある際は、その先生達から要諦を聞いています。特に園内での育成は、職員個々にさまざまな課題を与え、その課題解決のために園長主任層がかかわり丁寧に指導しています。また、職員の配置にも配慮し若手とベテランを組み合わせるなどして、動きを見てもらいながら実地指導に活かしています。日中活動中外部への研修が難しい中、実務の中で教育効果が高まる取組みを行い、サービスの質向上につなげています。

#### 今後の取り組みが期待される点

##### 1. 階層別の役割を明確にした個別の育成計画作成が求められます。

当園では、知識技能を高める研修を行っています。外部が主催する研修会に参加したり、園内においては与えられた課題に対して園長主任層が確認しながら進め、育成効果を高めています。しかし、職員が目指す姿が明確になっていないため、個々の動きとなってしまっています。経営層の頭の中には育成像を描いていますが、職員にも共有出来るようにキャリアパスを明示することが求められます。各階層の役割等を明確にして、そこに至るためにどのような知識技能が必要かをまとめることで、現在行っている教育項目と連動させていくことを期待します。

##### 2. 中長期の視点をいれた計画書の作成と単年度の事業計画との連動が望まれます。

当園では単年度計画である事業計画書をまとめています。さらに事業報告書で計画したものがどうであったかを振り返り、次年度に活かす流れが出来ています。各書式において園の概況だけでなく、保育業界を取り巻く状況なども触れており、その状況に応じて園がどのようにしていくのか展開しています。ただしこの視点に中長期の視点が欠けています。今後の園として考えていることが明示されていません。実施と振り返りの流れが出来ている単年度の流れに中長期の視点を入れ、実施項目を関連づけしていくことで、より良い園運営になることが期待されます。

##### 3. ボランティア活動を受け入れる準備体制を整えることが課題です

ボランティアバンクに申し込み、登録をしていますが、希望される方がいないこともあり、ボランティア受け入れのためのマニュアルの整備がされていません。今後の活用を視野に入れ、整える必要があると思います。ボランティアに対する方針、対象要件、期間、業務内容、担当者などを明確にし、受け入れのマニュアルを作成されることを期待します。

## 評価領域 I 利用者本人(子ども本人)の尊重

### I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成

- ・保育理念と基本方針は、仏教の考えを基本とし子どもを尊重したものとなっています。全職員が確認できるよう事務室内に掲示し、会議で理念の読み合わせも行っていますが、全員が意識して普段の保育に反映させているかという点においては十分ではないようです。非常勤も含めた全職員が一堂に集まることが難しいですが、基本となる部分についてはさらなる指導が必要だと園では考えています。
- ・現在の保育課程は作成してからしばらく見直しは行われていません。作成時に在籍していた職員は理解していますが、若手職員との理解には差が生じてしまっているのが現状です。また、保護者へは入園説明会で説明していますが、改定した際の説明は不足しています。保育の柱となる保育課程について、内容の振り返りから関係者への周知に至るまで再検討する必要があると考えられます。
- ・指導計画は年齢ごとに作成し、子ども達にわかる範囲で伝えています。活動はクラスごとに月案を作り、その内容に沿って行っています。子ども達からは、行事の役割分担など希望を職員が聞きとり、主体性をもって取り組んでもらえる場を作っています。

### I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施

- ・入園にあたり、保護者とは事前に面談をしています。そして、「入園時確認書」「入園時調査票」などの書類を保護者に作成してもらいます。このようにして子どもの日頃の様子を確認し、入園後につまずかないように配慮しています。慣らし保育を1週間から10日間設け、子どもの様子に応じて対応しています。今回の利用者調査では入園前の対応について「満足」「どちらかといえば満足」の回答が100%となっています。
- ・新入園児は乳児クラスで受け入れがあります。個別で担当職員を付けることはせず、担当するクラスの職員全員でかかわりながら子どもとの関係を作っています。また、子どもが園の活動に慣れるまで自宅の物を持ち込むことは基本的には行っていません。
- ・指導計画の評価、改訂にあたっては、複数担任クラスはお互いに確認して、1人担任クラスは主任に相談して毎月行うようになっていきます。しかし、保育課程同様に、十分に全員がかかわりながらできているかという点においては課題があり、また保護者の意向を反映させる点においてもできていない状況です。

### I-3 快適な施設環境の確保

- ・園舎は「光」と「風」を大切に考えた元で設計されています。建物には窓が多く、各部屋の採光性が高くなっています。建物中央にホールを作り、どの部屋からでも見られるようになっています。
- ・室内環境にはよく配慮されており、清潔が保たれています。トイレ清掃には特に気を配っています。

- ・建物には沐浴設備、温水シャワーなど必要設備が備えられています。利用者調査では約97%の保護者が満足していると回答しています。
- ・0歳児と1歳児は同じ部屋で過ごしますが、2歳児以上は年齢ごとの部屋があります。夏場には4、5歳児がホールで合同で過ごすこともあります。
- ・活動、食事、睡眠の部屋は分けられておらず、同じ部屋で行っています。それぞれの場面に切り替わる際に掃除するなど、配慮しています。

#### I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力

- ・3歳未満児の個別計画を月ごとに作成しています。また、幼児においても配慮が必要な子どもには年間指導計画を作成しています。計画の作成、見直しにおいては、保護者からの意見を確認するようにしており、日々の送迎時に交わす会話を重視しています。配慮が必要な子どもの計画については、面接で専門職が立ち会い説明し、加配することに保護者から同意を得ています。
- ・入園時に、子どもの家庭での様子などを所定の書類に記入してもらい、保護者に提出してもらっています。そして、入園後は児童票、月案に園での様子を記録しています。記録は誰でも見ることができますが、職員は自分のクラスの記録はよく見っていますが、他クラスの記録にまでは意識がいかないようです。この点は今後改善していきたいと園では考えています。
- ・進級時は、前年度の担任が園児引継ぎ書類として申し送り一覧を作成し、翌年度の担任に子ども達の情報を伝えています。

#### I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み

- ・配慮を要する子どもを受け入れるにあたり、職員は専門の外部研修を受けて対応できるよう備えています。しかし、参加した職員の専門性は高められています。学んできた内容を園内で共有したり、共通認識を持つような場を設けることはできていません。園全体としての共通した取り組みに期待します。
- ・虐待に関する定義について、職員の自己評価結果ではポイントが低くなっており、園として共通した認識が持てていない様子がうかがえました。虐待防止マニュアルがあり、全職員が読むように徹底しているとのことですが、全員で読み合わせて共通の理解を深めるなどの取り組みが望まれます。
- ・アレルギーを持つ子どもに対して、給食で除去の対応は行っていません。毎月末に翌月の献立を保護者がチェックし、必要に応じて給食室内で食器を分けてからクラスへ配膳するようにしています。また、除去する食材があるときには、自宅から代替食を持参できることも伝えています。
- ・園には外国籍の子どもが在籍しています。地域性からか、以前から外国籍の子どもが多くいるため、子ども達は自然と受け入れているようです。保育の中で、どこの国の出身

であるか、どんな言葉話すのかについて触れることで、子ども達の興味を惹いています。サイバードリームという英語の活動プログラムがあり、外部講師を招いて子ども達が英語に触れています。

## I-6 苦情解決体制

- ・保護者からの意見を聞くために、年2回（春と冬）に保護者懇談会を行っているほか、年1回アンケートを実施するなど取り組んでいます。しかしながら一方で、第三者委員や他機関の苦情解決窓口について、玄関に掲示して周知を図っていますが、職員の自己評価では十分に伝えられていない様子もうかがえました。
- ・保護者からの苦情等に対してはマニュアルがあります。何かトラブル等があった場合には、担当職員から担任、園長へと報告する流れとなっており、翌朝の申し送りで全職員に伝えられています。しかし、この体制についても職員の自己評価は低くなっており、園全体としての共通認識が持てているかどうかについては課題があるようにみえます。利用者調査では、保護者からの相談事に対しては約90%が満足していると回答しているので問題はなさそうですが、職員間の共通理解を深める取り組みは必要と考えられます。

## 評価領域 II サービスの実施内容

### II-1 保育内容 [遊び]

- ・子どもが自由に遊んだり、主体的に活動する時間は、朝・夕の延長保育時間や決められた時間の中で行われています。また、一つの活動から次の活動に入る間で遊ぶこともできます。保育室内には絵本ラックが置かれていますが、おもちゃ類は決められた時間に保育士が戸棚から取り出すことになっています。今後、おもちゃは子どもの手が届く位置に設置し、自由に子どもが取り出して遊ぶ環境づくりを検討されるとよいと思います。おもちゃ類は職員の手作り品や市販のおもちゃが使われていましたが、見立て遊び、構成あそび、手先の機能、運動機能、表現あそび、知育玩具など発達に応じた玩具の選択が期待されます。
- ・園では知育に力を入れた一斉活動を行っています。幼児に向けて科学（専任講師による年6回）、文字・数ランド（年20回、5歳児のみ）、英語（ほぼ毎日VTRで）、絵画（専任講師による月1回）、体育（専任講師による週1回）を行っています。一斉活動の合間には自由に遊ぶ時間もあり、ボール遊びや爆弾ゲームなどをする中で、子どもが自らチームを作り、ルールを設けて遊んでいます。砂場では、一人一人の子どもに興味や関心を持って遊べるように声掛けや合づちを打つなど職員が援助していました。
- ・園庭の端にはプランターがあり、5歳児が野菜や花を栽培しています。夏野菜はナス・トマト・しし唐・ピーマンで水やりや草むしりを行い、収穫して、食べることに喜びを

感じています。カブトムシやメダカ、金魚を飼い、5歳児が餌やりやお掃除をしています。散歩は各クラス月1～3回で、園が指定している公園は4か所と鶴見川の土手に行きます。行きかう人には挨拶を交わしています。

- ・講師による音楽指導を月1回行い、3歳児は鈴やカスタネット、タンバリンなどの打楽器遊び、4歳児はハーモニカ、5歳児はメロディオンの指導を受けています。発達に合わせた楽器指導と音楽会に向けた取り組みを行っています。また、日常生活の中で、子どもは自由に楽器遊びを楽しんでいます。講師による絵画教室も行い、各月テーマを決めて貼り絵や自由画、ボディペイティングなどがあります。日常では新聞紙や広告紙、自由画帳などが置いてあり、自分の気持ちを自由に表現できる機会も設けています。
- ・子どものトラブルについては互いの子どもの意志を確認して子ども同士で解決できるように、正しい方法を考えるようにしています。異年齢の関りでは、朝夕の合同保育を行っています。幼児は小さな子をトイレに連れて行ったり、片づけを手伝うなどいたわっています。小さな子どもはお兄さんお姉さんとの関りが喜びとなっています。職員は一人一人の子どもとスキンシップやコミュニケーションをとることで信頼関係を結んでいます。
- ・戸外活動は天気の良い日は毎日行っています。園庭遊びが主で、乳児は、毎週散歩に出かけています。その際には日よけ帽子をかぶり、園庭にはテントやネットを張り紫外線除けをしています。園庭は各クラスの使用時間を決め、発達段階に応じて運動能力を高める遊びの環境を設定をしています。子どもの体調の悪い時には外遊びはしないでフリー保育士とお絵かきや絵本など本人の好むおもちゃで遊んでいます。

## II-1 保育内容 [生活]

- ・保育士は、子どもが残さずに食べるよう「頑張って」と声掛けしたり、スプーンで集めて食べやすくするなど援助していますが、無理強いはありません。5歳児の食事では食べる前に自ら申し出て量を減らしていました。子どもが自ら食べようとする意志や行動を大切に、ペースを尊重しています。授乳は保護者と話し合い、一定の時間間隔で行っています。子どもを抱っこし、様子を見ながら授乳し、子どものペースを尊重しています。保護者との面談で離乳食の形状を聞き、離乳食は中・後期（6～7か月頃）から始めています。昼食時には保育士が給食のメニューを説明し、どんな食材が使われているかを説明しています。幼児は自分で食事の配膳をしています。また、食べたお皿は一人一人が配膳台まで下げていました。
- ・旬の食材や安全な食材を使用し彩豊かな盛り付けにしています。量は少なめにし、お代わりができるようにしています。つゆは昆布や鰹節を使い、みそ汁はだし粉を使用で薄味にしています。行事食は七夕のソーメンや七草すいとん、柏餅やお月見団子などがあり、ほぼ手作りのおやつを提供をしています。食事の時は、保育士はエプロンを変え、

頭にナプキンをかぶり、衛生面と食事の雰囲気づくりをしています。食事では食べている食材の話をしたり、子どもの話に合わせるなど家庭的な雰囲気を大事にしています。

- 献立メニューは2週間のサイクルにし、毎日栄養士は喫食状況を把握し、残食の多い時は味の調整や細かく刻むなど年齢による工夫を行っています。給食会議は園長、栄養士、主任、担任が参加し、毎月開催しています。次月の献立表や子どもの喫食状況、アレルギー児への除去食等について確認したり、調理方法や行事食、各クラスの食器等について検討しています。栄養士や調理員は月に数回クラスを廻り子どもの喫食状況を確認し、子どもたちに直接味の感想を聞いています。
- 献立表は昼食、午後おやつ、主食、午前おやつ（1.2歳児のみ）主な材料を載せています。毎月の献立表には、旬の食材やレシピ、今月の食育活動を掲載し、保護者に配布しています。レシピについて保護者に説明したり、メモを渡すことはありますが、献立作成のポイントについての情報提供や定期的なレシピの提供はされていません。えんだよりで「野菜をおいしく食べるコツ」「家族団らんの食卓で」などの給食ニュースを載せ、保護者に食に対する関心を促しています。また、ホールには、給食サンプルを置き、保護者や子どもに今日の献立を伝えています。誕生日に誕生児の保護者参加があり、食事の提供を行っています。
- 眠れない子どもは布団の中で横になり静かに休息の時間とするなど子どもの発達状況に配慮しています。午睡の時間はブラインドやカーテンで部屋をやや暗くし、静かに眠りにつける環境にしています。乳児には保育士が傍らに座り、トントンしたりさすったり安心して眠れるよう配慮しています。乳幼児突然死症候群対策として0歳児は5分、1歳児は10分、2歳児15分ごとに呼吸の確認をし、午睡記録を取っています。4歳児は4月から午睡なしで、机に伏せて休息をとっています。また寝ることもでき、布団の必要な子どもは園で貸与しています。5歳児の午睡はなく、自由遊びや制作活動、卒園制作をしたり、園庭で遊んだりしています。
- 排せつについては、決まった時間を設定することにより、排せつのリズムが付きやすいと捉え、散歩に行く前、午睡前などトイレを促し、援助しています。1歳児の後半になると排せつはオマルを使用しながら排せつへの気持ちを育てています。トイレトレーニングは子どものトイレの間隔が長くなったり、友達をまねるなど発達状況に応じて保護者と連絡を取り合い個別に対応しています。家庭の排せつ状況や園での対応を連絡帳や送迎時の会話で保護者と伝えあい、連携を図っています。調査訪問中におもらしをした子に対して、保育士が叱ったりせず、「今度したくなったら早く知らせてね」と小さな声で伝えていました。他の保育士が、消毒液できれいにふき取っていました。

## II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]

- 子どもの健康については「保健衛生マニュアル・保育園の保険と健康管理について」があり、身体測定・各健診、毎日の健康状態の観察、怪我や事故の予防・対応、SIDSの予防、与薬、病欠児の



管理、保健教育・指導、職員の健康管理についてまとめています。既往症については入園時に保護者が提出する児童票や「健康の記録」で把握しています。「健康の記録」には、予防接種、罹ったことがある病気やケガ、かかりやすい病気と体質等が記載され、それに基づく対応を職員に周知しています。また、重要事項説明書(しおり)で怪我や事故、病気の際の対応、嘱託医、与薬等の対応について保護者に知らせています。朝の受け入れ時には保護者との会話や連絡帳、子どもの顔や機嫌を観察し、記録しています。園で体調不良だった場合は、園長に報告し、体温の上昇がみられるようなら園での様子を保護者に伝え、帰宅後の対応について話し合い、翌朝登園時に帰宅後の体調について聞いています。口腔衛生については、仕上げ磨きは2歳までとしています。3、4、5歳児は歯科衛生士による歯科指導が行われています。

- ・嘱託医による健康診断は年2回、歯科検診は年1回、身体測定は月1回行い、検診の結果を記録しています。健康診断や歯科検診の結果で異常のある場合には、すぐに担任が保護者に連絡しています。また、所定の用紙にて個別の健診結果と各クラスの保護者に向けた医師のアドバイスや小児医療情報を載せ、情報を共有しています。園だよりで予防接種や虫歯の予防など保健に関わる情報提供をしています。健診結果で気になる事があった場合など必要な事項について嘱託医から相談やアドバイスをもらったり、感染症の流行時の情報を伝えてもらうなど連携を図っています。
- ・感染症対応マニュアルがあり、学校伝染病予防規則、保育園感染症出席停止基準、感染症が疑われる場合、発生した場合等が記載されています。全職員が読み、その都度職員会議で取り上げています。保育中に発症した場合は、園長に報告し、体温が37.5度以上の上昇がみられるようなら園での様子を保護者に伝え、迎えに来るまで事務所に隔離し職員が対応しています。帰宅後の対応について話し合い、翌朝登園時に帰宅後の体調について聞いています。感染症が発生した時は、発生日時・感染症名・症状などを記載し掲示板に掲示して保護者に知らせています。市や嘱託医からの最新情報については園長が朝の打ち合わせで職員に周知しています。

## II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]

- ・感染症対策マニュアルには職員の衛生管理、保育園内の衛生管理(保育室、プール、砂場・園庭)、感染症対応があり、その他にノロウイルス嘔吐、嘔吐物処理方法、トイレ清掃マニュアルがあります。マニュアルの見直しは必要に応じて行い、回覧をしています。職員全員が参加し定期的にマニュアルの見直しをする仕組みを作ることを期待します。職員は入職時にマニュアルを確認しています。今年度は、嘔吐セットの講習を行い、見直しを行っています。業務マニュアルに基づき、トイレ清掃は1日3回行っています。また、パート職員用に実務内容を書いたマニュアルがあります。マニュアルは事務室、保育室に保管され、マニュアルに基づいて保育室、トイレ等の衛生管理や清掃を実施し、園内外とも清潔な状態が保たれています。

## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]

- ・危機管理マニュアル、事故防止・対応マニュアルがあります。地震対策として飛散防止ガラス、フィルムを張っています。マニュアルには危機管理における指揮権、危機における対応と予防の二つに分け、地震発生時の予防と対応、火災時における予防と対応、事故発生時における予防と対応等について記載しています。緊急連絡体制として、職員連絡網と保護者への安全連絡網を整備し、鍵付き書庫に保管しています。防災訓練・避難訓練は毎月、不審者対応避難訓練を年 1 回実施しています。常勤職員はAED操作や救急救命法を身に付けています。非常勤やパート職員への周知不足が見られます。全職員が参加できるよう検討されることを期待します。
- ・保護者への緊急連絡票や地域医療機関、地域防災拠点・消防署への緊急連絡体制があります。子どものけがについては口頭や電話、連絡ノートで保護者に必ず連絡し、状況を報告し記録しています。ヒヤリハットは保育日誌に記載しています。事故報告書を整備し、本年度は 2 件報告されています。事故等についてはその都度改善策を園長・主任で話し合い、職員全員に再発防止策を伝え改善を促しています。保護者にも協力が必要なものについては園だよりやお知らせで伝えていきます。
- ・園への出入りは玄関と園庭側の出入り口があります。不審者侵入防止のため、玄関の出入りは施錠とインターホンで対応しています。園庭側の開場時間は決まっており、それ以外は玄関を使用します。玄関・門の施錠時間は重要事項説明書に明示し、保護者に周知しています。土曜日は玄関のみで、インターホンで対応しています。事務所で確認できるモニターを設置し、侵入防止を行っています。また、正確な登後園時刻の記録管理のためICカードを使用しています。不審者情報は、区の子ども支援課からの連絡を得ることができ、必要の際には、緊急通報連絡体制を使い緊急時に備えることができます。

## Ⅱ－３ 人権の尊重

- ・子どもを呼びかけ方については特にルールは設けておらず、「ちゃん」「くん」と下の名前前で自然と呼び掛けています。子ども達を馴染みやすい呼称で呼ぶことで安心感を与えています。時には子どもへの言葉がけが厳しくなってしまうことがあり、その時には周囲の職員が子どもの様子を見てフォローするようにしています。
- ・子どもの気持ちが高ぶってしまった時などに、落ち着いて過ごせる場所が建物内には作られておらず、ホールや事務室など、その時の状況に応じて場所を選んでいきます。この対応方法により、特に問題は起きていません。
- ・個人情報の取り扱いに関しては、厚労省から出ているガイドラインを参考にして対応しています。しかし、全職員への周知はできておらず課題といえます。年度初めの春に

行う保護者懇談会で取り扱いの説明はしていますが、同意書などはもらっていません。

- ・性差に関して、ロッカーの配置などは男女に関係なくしていますが、出席や整列は男女に分けて行われていました。順番やグループ分けは性別による分け方は現在の保育では望ましいとされていないことから、見直しが望まれます。

#### II-4 保護者との交流・連携

- ・入園説明会や年1~2回の懇談会で園長や職員が保育理念、保育方針、保育目標を説明しています。毎月の園だよりには月ごとのねらいや方針を明記しています。入園時に保護者に配布する重要事項説明書（しおり）には保育理念、保育方針を明記していますが、保育方針や目標に関わる保護者向けアンケートは実施されていません。また、保育理念、保育方針、保育目標は園内3か所に掲示しています。外国籍の保護者が多いゆえに重要事項説明書、園だより、お知らせにはすべてフリガナを付けています。
- ・日々の送迎時には、子どもの家庭での様子を聞き取り、帰りの際には1日のエピソードや成長の様子などを伝えています。連絡帳を使い、保護者の疑問や質問に答え、日中の振る舞いや様子を伝え、家庭との連携のもとに子どもを保育しています。年1回全保護者に向けて個人面談を実施し、子どもの様子を伝え、保護者からのご意見をもらっています。また、外国籍の保護者の方が多く、絵や物品を使い園のお知らせを説明しています。また、面談をしたほうが良いと思われる場合には保護者へ働きかけをするとともに、保護者からの要望があればその都度面談を行っています。保護者懇談会は年1~2回クラス単位で実施し、クラスの方針や保育内容を伝え、保護者との交流を図っています。
- ・非定期の相談や面談の際には、職員室を使い、他の人に聞かれないようにしています。相談を受けた職員が適切な対応ができるよう担任や主任、園長がフォローに入る体制があり、最初から園長が対応するケースもあります。カウンセリング技術の有資格者は園長一人ですが、相談援助技術の研修を受けている職員が数名います。要配慮児や障害児等の相談記録は継続して取っています。
- ・園だよりはA3の両面を使い毎月定期的に発行し、保育目標、今月の予定、お知らせ、お願い、家庭連絡、お誕生日、保育内容等を掲載しています。また、給食ニュースや保健だより、クラスだよりを載せ、クラスの活動や子どもの成長の様子が記載されています。「今日の保育・明日の保育」として1日の活動の様子を各クラスのお支度の場所に掲示し、その日のお迎え・帰りには読むことができます。
- ・年度初めに年間行事予定表を保護者に配布し、就業している保護者の予定や準備に配慮しています。誕生日会を月1回実施しており、保護者が参加し給食と一緒に食べ、遊ぶことができます。参加のできる行事は運動会、親子遠足、花祭り、盆踊りがあります。乳児については2月に行う音楽会、盆踊りがあります。保育参観や懇談会について実施状況をホームページや園だよりで報告し、参観できなかった保護者に対しても手紙

や配布物を渡し、担任が口頭で説明しています。

- ・郵便局に絵本を差し上げたり、パイプ椅子を他園に貸与しています。AED を設置しており、いつでも貸し出す用意があります。毎年卒園予定クラスの母親が謝恩会準備のために会合を持っています。園長はじめ職員に対して謝恩会への招待があり、出席しています。

### 評価領域 III 地域支援機能

#### III-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供

- ・地域に向けて子育て相談を実施していることを掲示しています。開園しているときはいつでも地域の子育ての相談に応じ、子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っています。鶴見区市場地区の子育て支援事業の一環として、育児イベント「あつまれ笑顔」開催の打ち合わせに園長、主任、職員が参加しています。そうした活動を通じて地域の子育て支援ニーズを把握しています。園長は、幼・保・小連絡協議会や子育て支援連絡会に参加し、情報交換を行い、地域の子育てニーズを把握しています。
- ・次年度の子育て支援について職員会議等で話し合い、子育て支援計画を作成しています。交流事業として未就園児向けに運動会や花祭りに招待しています。また、一時保育を実施し、年間延べ 20 名弱の子どもを受け入れています。専任講師が行う体育指導と絵画指導の講座を地域に向けて実施し、15 組ほどの参加がありました。

#### III-2 保育所の専門性を活かした相談機能

- ・開園中はいつでも地域からの相談を受け付けています。また、交流保育や公開講座などを通して、離乳食や午睡等への対応など子育て中の母親から相談を受けています。地区の子育て支援事業として関わった育児イベント事業は区の広報誌にのせて地域に向けて発信しています。また、園児募集も含めて地域内商店やお寺など 7 か所の掲示板に地域住民への情報提供を行っています。
- ・市・区行政、児童相談所、学校等の関係機関、町内会・民生委員、他園等の地域団体の名称や電話番号がありますが明確なリスト化はされていません。今後は整備し、職員も活用できるよう検討することを期待します。関係機関との窓口は園長と主任が担当し、子ども家庭支援担当課や療育センターとは日常的に連絡を取り合っています。

## 評価領域Ⅳ 開かれた運営

### Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ

- ・園が主催する年間の大きな行事には地域の人の参加を呼び掛けています。4月に開催した「花まつり」では、300名、盆踊りは450名ほどの地域住民を含めた参加がありました。10月の運動会には学校長や担当教員、他保育園に招待状を送り、参加を頂いています。近隣の小学校の作品展や運動会に招待を受け参加したり、小学校との交流会を行い、一緒に遊んでいます。地区の幼・保・小連絡会が行うドッチボール大会に参加しています。高校生や中学生の職場体験を行っています。地域に向けて椅子や絵本の貸し出しを行っています。年末には餅つき大会を行い、近隣に挨拶し、お餅を配っています。
- ・上野動物園や品川水族館、八景島へ遠足に出かけるなど、地域の文化リクリエーション施設を利用しています。月に3～4回は近隣の公園（5箇所）を散歩したり、郵便局でハガキを購入したり、近隣商店で買い物体験を行っています。他園とドッチボールをしたり、2つの小学校とは遊具で遊ぶなど交流会や作品展、運動会に参加しています。町内会の祭りで神輿が来てくれたり、横浜開港記念日や潮田神社祭に参加できるようお知らせしています。

### Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供

- ・園のパンフレットやホームページ、広報誌で地域や関係機関に園の様子や活動状況を提供しています。子育て支援事業や公開講座、交流事業で園のパンフレットを配布しています。区子ども家庭支援課広報誌「つるみ DEこそだて」に一時保育や地域開放事業など園の情報を提供しています。横浜市私立保育園園長会のホームページで園の紹介をしています。横浜市ハピネスポットにて、職員体制、延長保育料金、など詳細な情報を提供しています。
- ・利用希望者の問い合わせに対して園長・主任・事務・職員が対応し、園に支障のない限り見学等の対応ができることを伝えています。電話では仏教園であることや保育理念・方針、サービス内容について伝えています。見学者希望者には、要望に沿う日程調整を行い、園の保育に影響のないように配慮し案内をしています。また、パンフレットを配布し、保育理念や保育の特徴、仏教園であること、教育面、アレルギー、外国籍、費用や制服等について説明し、園内を案内し、見学者の質問に答えています。

### Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ

- ・ボランティアバンクに申し込み、登録をしていますが、希望される方がいないこともあり、ボランティア受け入れのためのマニュアルの整備がされていません。健康で、清潔感のある方を希望し、運動会の補助として準備や片付け、用具の出し入れなどを行ってくれる人を希望しています。ボランティアに対する方針等受け入れのマニュアルを整えておく必要があると思われます。

・受け入れにあたり園長は職員及び保護者に実習生のへの方針や考え方を伝えています。子どもには当日の朝伝えていきます。受け入れは園長・主任が担当し、実習プログラムについては実習生本人の希望を聞き、意向に沿うようプログラムや日程を組んでいます。毎日実習後には実習日誌を提出し、その日の反省を担当・主任と行い、挨拶の大切さや失敗しても恐れないなどアドバイスをしています。実習全日程終了時には担当者を交えて反省会を行い、感想を聞いています。「大変であった。緊張した。楽しかった。」等の反省が寄せられています。

## 評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

### V-1 職員の人材育成

・当園では、職員構成（雇用形態など）のバランスを事業報告書に職員動向として載せ、管理しています。今回の調査時点は、保育業界全体に採用状況の厳しさがあります。その中で育成するための人材確保を量的に管理し、職員構成のバランスをみています。この結果をうけて次年度の事業計画にも対策案を記載しています。ただし記載事項が一般的なものになっているので、振り返ったことで見えてきた対応策を載せていくとさらに良いものになると思われます。一方で、量的不足が先行していることもあるためか、園の理念・方針を踏まえた職員像が明示されていません。そのため、そこに至るまでの育成計画を確認することができませんでした。今回職員の意見も含んだ調査では、8割近い方が人材育成計画が策定されていないと回答しています。このことから、軸となる育成計画の作成が期待されます。

・育成の進捗確認ともいえる評価面談を年2回行っています。評価シートを活用し前期と後期の2回に分け、個人目標とクラス目標を掲げ取組んでいます。時期が来るとそれについて面談を行い、振り返りを行っています。この際の自己評価表なども使い、どの点が出来ていて、どの点が出来ていないか等を明確にすることが出来ています。一方で、この振り返りが生かし切れていないと経営層には課題認識があります。この点は職員による今回の自己評価にも表れているため改善していくことが望まれます。目標を掲げていたり、面談したりする取組みは定着しています。先述した育成計画などの作成とからめ仕組みを構築していくことを期待します。

### V-2 職員の技術の向上

・職員の技術向上を目指した研修等の学びは多く用意されており、施設内外の研修に参加出来るようになっていきます。研修計画も年度で作成されテーマなどが明確になっています。特に内部研修には力を入れており、若手の職員にテーマ学習してもらい発表してもらおう等の流れが出来ています。このテーマ習得に主任先生や園長先生が携わり中身の確認を通じ育成の機会としています。

・保育にあたっては正規職員の方、非常勤職員（パートや派遣社員のかた）の方も区別なく子ども達とかかわります。そのため質を高める研修内容は常勤職員/非常勤職員分け隔て無く実施しています。しかし、実際は働き方の違いなどから受講にバラツキが出てきます。そのため園では、研修に参加出来なかった人にも内容がわかるように、職員会議で説明したり、資料を回覧するしたりしています。さらに、日々の業務の中で教えることができるよう、職員の配置を考慮したり、業務マニュアルをいつでも見られるようにしてあるなど知識技能にバラツキが出ないような工夫に努めています。

### V-3 職員のモチベーションの維持

・当園では、職員のモチベーション維持向上を図るよう様々な取組みを行っています。職員の意向把握を行い現場で働きやすいような配置、業務改善に取り組んでいます。配置に関しては、経験などを考慮した組み合わせを行い若手職員の不安がないようにしています。また、現場においてはなるべく権限委譲し現場に任せるようにしています。このような背景から、現場からも業務効率を高めるための諸策が提案され検討を加えながら実施しています。

・一方で今後の課題と思えるものも確認できました。中でも業務水準の明確化が挙げられます。書面としては、職務記述書として明文化しています。しかし、職員側には伝わっていないことが今回の調査で確認できました。今回の課題は書面の有り無しではなく、現場での各人の期待水準が明確になっていないことです。どこまで何をするのか今回の評価を機に話し合いの中で確認することを望みます。

## 評価領域 VI 経営管理

### VI-1 経営における社会的責任

・当園では、組織として及び就業する職員個々においても、不正や不適切な好意を行わないよう守るべき規範等を就業規則に明文化しています。就業規則は適時閲覧出来る状況になっています。また確認が必要な際は職員会議等で共有し、職員に周知徹底を図っています。

・年度の事業計画書には、施設を取り巻く概況などの環境分析が記載されています。昨今の社会情勢を踏まえた園運営を行っていることが窺えます。調査時点における保育士不足の状況を受け、それに対する対策をまとめます。実際の対応策として、採用時に取るべく策、定着率を高める為の職場改善や職員育成策など具体的に記載しています。また、事業報告書において取組みの結果と振り返りをおこなっています。その振り返りをもとに次年度の事業計画案のベースとなっています。

・園の運営状況は、経営数字面は決算書をホームページに公開し閲覧することが可能な状況になっています。また事業報告書には、財務状況という項目を設け、収支状況や年

度の積立項目などトピックを記載し報告しています。収支面に関係する、職員の採用状況、収入加配等についても触れていきます。表記もわかりやすく、保育園の運営の仕組みを熟知していない方がみても理解し易くなっています。日々の状況に関しては、園からお便り等を発行し保護者や関係者に状況を伝えています。

- ・地域ニーズ等に対応するだけでなく園として環境面へ配慮した取組みもおこなっています。具体的な取組みとして、月度の保育内容の取組み案の中にも目標（例えば、水道の使い方を確認する等）として取り上げる月もあるなど実際の活動も行っています。

## VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等

・園の理念や方針は事務所に掲示したり、職員会議等で適時読み合せをしたりする等して周知を図っています。また園案内やしおり、事業計画書や報告書などの書面にもそれぞれの項目で目指す方向などを記載し周知しています。一方で経営層の課題認識や今回の職員自己評価結果から、方向性の理解度や浸透度及び実現度については、再度確認していく必要があるでしょう。

・当園は、園長、主任層が主体となり園をリードしています。個々の職員の勤務状況や心身面に配慮しながらシフトを調整したり、研修参加を促したり、課題項目に取り組んでもらったりするなど育成にも力も入れています。その面が園全体としてみると、トップ独断と取られる面があると今回の自己評価結果から推察できる数字が挙っていました。園の課題認識としても意思決定に関して、意見交換の場が少ないということも挙げています。今回の調査では現場への権限移譲を推奨している姿も確認できました。課題である意見交換の場を設け、園長主任層から要点を伝え、推奨している権限移譲で現場に任せるなどを検討することも必要でしょう。

・主任に対して計画的に育成する園独自のプログラムは策定していない状況です。外部が主催する研修や園全体で行う研修などには参加して知識技能をさらに深めています。調査時点では保育業界全般に保育士不足で、当園においても主人がクラスにはいることもあり、主任としての業務を果たせていないとの認識が経営層の中にあります。この認識している課題を主任という役割だけでなく、園全体としての役割分担について、これを機に検討していくことを期待します。

## VI-3 効率的な運営

・理念実現に向けて、重点項目をまとめた事業計画書や事業報告書を中心に、計画・実行・振り返りの管理サイクルが定着しています。場当たりの対応ではなく課題解決に向けて効率的な運営を行っています。一方で、単年度の施策だけでなく中長期の視点をいれた計画書が確認出来ませんでした。経営層の考えにはあることは確認できましたが、多くの方が携わる園運営なので、中長期計画書などとして書面化することが望まれます。

・中長期の視点を取り入れた園運営は経営層も課題であると認識しています。早期に作



成し具体的な項目を単年度の事業計画書に落とし込むことが期待されます。この中長期の園運営の方向性を定めるにあたりさらに情報を収集分析していくことも期待します。現在もエリアの園長会議や行政主催の説明会などの会合に参加し園を取り巻く環境把握を常に行っています。事業計画書にも園の概況だけでなく、保育業界における概況をまとめ、その状況を踏まえて計画を展開するなどしています。その単年度の事業計画書をさらに活かすためにも、中長期の視点を取り入れていくことを期待します。

## 本人調査

### 【0歳児】【1歳児】

食事（0・1歳児は合同で保育をしています）

1テーブルに5～6人が座り、3つのグループで食事をしています。0歳児の3人はテーブル付きの椅子に座り、それぞれのグループの横に入り、先生が隣に座り援助しています。一人一人の足がきちんと整うよう座り方を正しています。先ほどは、大根やゴボウなど冬野菜を各クラスに回して子どもたちが見たり、触れたりする食育活動をしました。

「ゴボウさん入ってる。」「さっき見たの入っているね」「おいしい、〇〇ちゃん」と声掛けしています。全員がスプーンを使っています。「どうしたの、上手よ、自分で食べて」

「おいしいね」「ごくごく、もぐもぐ」「かみかみして、パクンして」「ご飯ピカピカ」保育士は一人一人の子どもに気配りしながら、食事の進むようたくさん声掛けしていました。「集まれしちゃった」「食べた、食べ終わったね」食べ終わった子どもに「バナナどうぞ」保育士が皮の端を少しだけ剥いて子どもに渡しています。10センチほどに切ったバナナです。自分で剥く子、保育士が少し剥いて渡している子、一人一人に合わせて援助しています。「もぐもぐ忘れてるよ」「お茶上手に飲めたね」「ごちそうさまでした」

食事後の遊び

食事が終わった子どもは畳フロアで、おもちゃの入ったバケツから、ぬいぐるみや車などを取り出して遊んでいます。食事が終わった子どもが一人、二人と集まってきました。自分の気に入ったおもちゃを取り出しています。おもちゃを持ちあっちにいたり、こっちに来たりしています。保育士は食事の片づけをして布団を敷いています。0歳児は囲いの柵があり、その中に移され食事椅子に座っています。よちよち歩いている子もいます。

排せつ

和室の畳フロアにシートを敷き、3人の保育士がおむつ替えをしています。シートの上に新聞紙を敷きシートが汚れないようにしています。子どもはあおむけになり、丁寧におしりを拭いてもらっています。終わるとシートに消毒液でスプレーし、ふき取っています。

「おもちゃナイナイしよう。おもちゃかたづけしよう」おもちゃで遊んでいた子と呼んでいます。遊びが楽しいようでなかなか応じません。今度は午睡に向けて着替えです。「〇〇君、お着替えよ」と子どもを呼び、パンツをはかせ、パジャマを着せてもらっています。

## 午睡

保育士が絵本をもってコーナーに座りました。「頭、肩、ひざ、ポン、目、耳、鼻、口、膝ポン」と言いながら頭や肩に手をやると子どもたちも一斉に真似をし、最後に手をおひざの上にのせています。ブタさんの周りにお花が咲いている絵本を読みだすと、みんな静かに真剣に聞いています。「豚さん、お花をだれに上げようかな」「猿さん」と次のページを予測する子どもから声が上がりました。最後のページでは「お花をどうぞ・・・ありがとう…誰に上げようか」「パパとママ」と答えていました。「おやすみなさいしようかな」と保育士、「皆さんご一緒に・・・おやすみなさい」とみんなで唱和すると、「わー」とみんな自分の布団に行きました。天窓のブラインドがおりて暗くなり、音楽が流れだしました。保育士が布団をかけて子どもの間に入りトントンし、子どもたちはそれぞれ眠りについていきました。

## 園庭遊び

2～3人の子どもが「ヒコーキ」「ヒコーキ」と指さしながら見上げています。「見えなくなった」青い空にヒコーキが飛ぶのを見つけていました。滑り台に上る階段を「よいしょ、よいしょ」と保育士が後ろから支えています。スーと滑りを楽しむ子もいます。砂場では、保育士と一緒に遊んでいます。コップに砂を入れて、作ったものをひっくり返して小山を作りました。子どもも保育士の真似をして遊んでいます。砂を掘り起こしているうちにシャベルが出てきました。みんな、びっくりです。「プリンつくるよ」「みかんゼリーだよ」「誰に作ってもらったの」「先生に」と言っています。シャベルやコップを持って思い思いに遊んでいます。一人で砂の上に電車を走らせ遊んでいる子もいます。「今日は寒いからお茶にしましょう」と保育士の声かけでコップに砂を詰め始めました。他の1歳児数名は、かけっこが始まりました。思いっきり走る子どもたちを保育士が追いかけています。保育士の声掛けや見守りの中で、活発に体を動かしています。

## 【2歳児】

### 食事

子どもたちはテーブルにつきました。食事前エプロンをしている子が3分の1います。椅子をテーブルに近づけて座るよう保育士が直しています。ごはん、スープ、おかず、お茶と一人ずつセットして子どもの前に並んでいます。「お弁当、お弁当うれしいな何でも食べます…お手手をそろえてご挨拶…いただきます」と子どもが食事前の挨拶の歌を歌いました。合掌し、「どうぞ召し上がれ」と保育士が全員に声をかけました。食事が始まりました。「スプーン入れは右において」「お手手が逆になっていますよ」と保育士が左手から右手にスプーンを持ち替えるよう促しています。「スープをごくごくして」、「スープの中にさっき見たお野菜入っているかな～」と子どもたちに話しかけています。子どもは食事をしながら「お母さんとお買い物へいった」「ママの自転車ピンクなの」「僕のママのは黒なの」「僕の自転車はストライダー黄緑」子どもたちは互いに自分のことを話した

しました。「僕、もう少しで3歳」「〇ちゃん、タマチャン（丸いもの）食べてる～」 「きんぴらの中に何が入っている？」と保育士が聞いています。「キノコみたい」と子どもが答えました。「レンコン」と保育士が訂正しています。2歳児は友達と簡単な会話ができています。「よそ見してるとおつゆこぼすよ」と子どもに注意を促しています。食事が終わる子もいます。「ご飯いっぱい食べたらご本を見ててください」と保育士。「お皿もきれいにしてね」「ニンジン、ゴボウ…全部入っている」。「〇〇ちゃんきんぴら頑張ってる」保育士は子どもに絶えず目配りしながら食事の面倒を見ていました。ごはんを口いっぱいにしなが、「おつゆはある？」「リンゴは？」「今日はバナナよ」「お野菜食べて、かみかみして」「お代わりください」「わかりました」食事の早い子、ゆっくりな子それぞれのペースで食事をしています。「皆さんとご一緒にごちそうさします。ごちそうさま」合掌し、お手手パッチン「タオルとエプロン片づけた人から・・・コップとお皿片づけてください」子どもは食べた茶碗やお皿をワゴンに自分で運んでいました。

#### 散歩

子ども17名に保育士が5名で近くの公園まで散歩です。保育士1人に子どもが3人ずつ手をつないでいます。子どもは首から画用紙で作った筒の望遠鏡をぶら下げています。歩きながら道路に生えている枯れススキを見て「葉っぱがいっぱいあるススキだね」と保育士、「赤ちゃん葉っぱもある」と子どもが言っています。四つ角では黄色と緑の旗を持った先頭の保育士は車が来ないことを確かめて緑の旗を立てています。10分ほど歩くと公園でした。公園にはたくさんの樹木が紅葉し、落葉していました。ジャングルジムや滑り台、ブランコが設置されています。保育士の周りに子どもたちを集め「今日は滑り台はしません。こちら側は行ってはいけません」など子どもたちに注意をしています。他の保育士は危険なものがないか公園の隅々を確認しています。「今日は落ち葉を拾います」「きれいな葉っぱを探してね」一人一人に袋が渡されました。「赤い葉っぱがあった」「黄色い葉っぱだよ」「いっぱいいっぱいある」保育士と一緒に「これきれいだね、ママに見せてあげよう」公園の樹木の下は一面の落ち葉です。たくさんの落ち葉を踏みしめながら、落ち葉拾いです。保育士の誘導で子どもは自分の好きな色や形の葉を袋に詰めていました。

#### 【3歳児】

##### 園庭遊び等外での様子

砂遊び、ボール遊び、おままごとの3グループに分かれて遊んでいました。各グループに職員が付き、声を掛け合いながら楽しそうに子ども達は過ごしていました。砂遊びでは一緒にお山を作って、ボール遊びでは職員がボールを投げた子ども達が追いかけて、おままごとでは静かに見守りながら、それぞれが思いのままに活動している様子を安心してみる事ができました。園庭遊びが終わる時には、職員から「お片付けですよ」の号令の下、

子ども達はすばやく動く姿は日頃からの習慣が身についていると感じました。そして、子ども達自ら忘れ物がないかと園庭を見回り、集合の合図と共に整列しました。点呼をし、服についた砂を振り落とし部屋へ入って行きました。全体で統一された行動ができていた点が良いと思いました。

#### 室内活動の様子

活動の区切り区切りで歌を歌うようにしているようです。職員がピアノを弾き、子ども達が大きな声で一生懸命に歌っています。歌うことで、子ども達の心の準備ができ、次の活動へと移っているようにみえました。職員の指示に子ども達は注意を払い、それぞれの活動に集中できていると感じました。時折、集中できていない子どもがいる場合には、個別に寄り添って声をかけるなどして、一人ひとりにも配慮している様子がうかがえました。食事に同席して子ども達の様子を見学しました。各自のテーブルに座り、落ち着いて食べていました。途中で立ち上がって歩き出すような子どもはおらず、またおしゃべりに夢中になって食べるのがおそろかになるような子どももいなく、食事の躰が身についていると感じました。少し食べるのが遅い子どもには、職員が適宜声をかけて食べるよう促していました。

#### 【4歳児】

##### 園庭遊び等外での様子

園庭遊びの時は皆元気に遊んでいる姿を確認することが出来ました。ボール遊びや砂場遊び、追いかっこ等それぞれ好きな様に自由に遊んでいました。友達とボール遊びをする子ども達はボールを譲り合いながらボール蹴りを楽しんでいました。砂場では、おままごとをしている子や山を作っている子などがいました。中には1人である子もいますが、その際は適時先生が声を掛け、皆のもとへ促している様子や無理なく楽しみを見つける方法など個々の状況に合わせた対応をしていました。園庭から室内に入る際は、まだまだ遊びたい子もいたようで、先生の声が届かない子ども達もいました。その際先生から話があり、皆で守らなければいけないこと、約束などの確認をしており、子どもに対して集団生活において重要なことを話していました。子ども達も先生の顔をみながらうなずいている姿がありました。このあたりは全体朝礼の整列などの時も近くにいた年長児とは違い、集中力が持たない様子がありました。しかし当園で生活し、あと1年経つと年長児の様になると各先生が話し、実際のかかわり方もつながっていると感じるものが随所に見られました。

#### 室内活動の様子

先生が伴奏するピアノに合せ歌を歌い、元気に歌を歌っている声が響き渡っていたのが強く印象に残るクラスでした。一転食事の際は先生の給仕に配膳する子、席で待っている

子など、役割分担と静かに待つときは待つことができる様子がありました。また、配膳後も子ども達から量の調整を先生に伝える等意思表示をしっかりと行っていました。量を減らす際も先生から頑張っって食べて欲しい量、具材に関しては声かけがあり、問いかけに対して無理していた様子ではなく、子ども達も素直に返事をしている姿がありました。食事中は楽しそうに話を食べている様子と先生のお代りの合図に即座に反応する様子などを確認することが出来ました。今回の調査では食事に同席させて頂きましたが、皆好き嫌いがなくすべて完食していました。また食後の配膳のやり方を丁寧に教えてくる姿は、普段からの保育が行き届いていることが窺えました。その他の活動の際には、絵などわかりやすくしたものを示しながら説明している先生の方を集中してみている様子がありました。また絵が見えないお友達がいると感じると場所を入れ替えたり、それが気づけない時は先生からも声掛けがあり、即座にお友達のために動く姿がありました。

#### 【5 歳児】

本調査時は 12 月に実施致しました。年長児として成長している点を随所に確認することが出来ました。園内の保育活動がうまくいっている思える様子を窺うことが出来ました。

#### 園庭遊び等外での様子

- ・朝の朝礼は年長児と聞かされていない状況でしたが、一目で年長児のグループがわかるほどでした。その様子は整列の様子、園長先生の話聞く様子、部屋に戻るときの様子など、どの場面でも年長児の動きのスピード、話への集中力をみる事が出来ました。
- ・園庭での遊びの時他のクラスと一緒にすることがありました。その際年長児同士で遊んで居ながらも小さい子達に気遣いをしている様子も確認できました。ボール遊びの時は、ボールが転がる先に当たりそうな子は居ないか、遊びをやる場所が問題無いか等確認しながら遊んでいました。先生達も適時声を掛けていましたが、年長児に対してはあまり過干渉にならない程度に、子ども達の自主性を尊重し遠くから見守っている様子が窺えました。園庭遊びから戻る際の外履きから上履きに履き替える際も先生の声に反応し、一人ひとりしっかり、かつてきばきと履き替え、靴を片付けていました。

#### 室内活動の様子

- ・様々な保育プログラムがあり、専門の外部講師を招いて保育を行うこともあります。見学時も外部講師を招き創作物を作成していました。その際担任の先生に対してでなくても講師の話に集中し課題に取り組んでいました。友達の進みの様子を確認したり、手伝っている場面もありました。基本的に一人ひとりが自分のことをしっかり行っているという様子が確認できました。英語のプログラムなどにも取り組んでいますが、映像や先生の問いかけに自信満々と手を挙げ応える姿がありました。また標準的なプログラム進行だけでなく、さらに上のプログラムに積極的に挑戦する姿も印象的でした。

・昼食の時間は配膳なども当番の子ども達が行い、待っている子配膳する子しっかりと役割分担出来ている姿がありました。食べる量も自分達で先生に伝え量を調整していました。先生も量を調整する一方、栄養面を考慮して食べて欲しい具材は減らさない等お互いに声を掛け確認しながら行っている姿がありました。子ども達のことを尊重しながら対応している様子を確認することが出来ました。

### 第三者評価を受審して

初めて第三者評価を受審しました。受審に当たって、どのような準備が必要か等、どう取り組めばよいのか分からず、心配な点も多々ありましたが、日本会計コンサルティングの方の事前の説明で「園の批判をするためのものではないので特別な準備をする必要はなく、東漸保育園の現状を把握し、これからさらにより良い園として改善していく目（姿勢）を持つことが目的。受審して終わりではなく結果を踏まえてその後の取り組みが大切」という説明を受けました。

受審前は正規職員、パート職員と双方に受審の意味や自己評価についての説明をして頂きました。自己評価は普段、全職員で確認・共有する機会はなかなか取ることが出来ませんでしたので、園の状況を把握する機会となりました。

保護者の皆様からのアンケートもご協力頂きました。

訪問調査は2日間に渡り、日々の保育の様子を見て頂くと共に、細かいヒアリングも行って頂きました。

第三者評価の結果・講評も来園のうえ、細かく説明を聞きました。また、職員向けの説明も改めて別日に設けていただきました。

職員の自己評価、保護者からのアンケートで見えてきた登園の姿を受け止め、継続して園の運営を進めていくべき点、今後に繋げるための課題・改善点などを客観的に把握することが出来ました。今回の結果を元に園として、より良い保育（園）を目指し、職員全員で取り組んでいきたいと思えます。